特定健診のご案内

ぜひ、イムス三芳総合病院での受診をお待ちしております。

対象者

40歳以上で三芳町・富士見市・ふじみ野市に在住の国民健康保険、後期高齢者医療保険、生活保護の方

※ 受診券は市・町から届きます。届いていない方は市・町へお問い合わせください。

40歳以上で社会保険に加入している被扶養者の方

※ 受診券に関するお問い合わせは健康保険発行元までお願いいたします。

受付期間

●国民健康保険にご加入の方は6月1日～11月30日まで

●社会保険にご加入の方は受診券に記載された有効期限をご確認ください。

市・町、または保険者から郵送された受診券の有効期限は必ずご確認ください。

受付時間

予約制ではありませんのでご都合の良い日にご来院ください。

月曜～金曜／	午前８：00～12：00
	午後１：30～４：30
土　曜／	午前８：00～12：00

受付場所

初診の方は総合受付へ、再来の方は自動受付機にて行います。

基本検査項目

①問診　②身体計測、BMI、腹囲、血圧測定　③血液検査（脂質・血糖・肝機能・貧血・腎機能 ※１）

④心電図　⑤尿検査（糖・蛋白・潜血）⑥眼底検査※2

※１ 腎機能検査は国民健康保険、後期高齢者、生活保護の方のみとなります。

※２ 前年度の結果に基づき市町より指示のあった方のみ対象となります。

追加検査項目

①肺がん検診（㋐胸部Ｘ線、㋑喀痰）

②大腸がん検診（㋒便潜血2回法）※締切り11月25日（金）

※社会保険にご加入の方は、三芳町・富士見市・ふじみ野市在住の方のみとなります。

金　額

●国民健康保険、後期高齢者の方　：　1,000円

●生活保護の方　：　無料（生活保護受給者証を必ずお持ちください）

●社会保険の方　：　特定健診の金額－保険者負担額＝自己負担額をお支払ください。

＋追加検査項目㋐㋑㋒各500円

持参していただくもの

□特定健康診査受診券

□健康保険証

□当院の診察券（お持ちの方のみ）

□生活保護の方は受給者証

□大腸がん検診無料クーポン券（該当者のみ）

※特定健診を受診するときは、受診券と健康保険証をご提示ください。どちらか一方だけでは受診できません。

★10月～11月は混雑が予想されますので早めの受診をお勧めいたします。

★健診当日は採血があるため、食後10時間以上空けてください。（水、茶可）

★健診前日の飲酒はお控えください。

ご不明な点は健診窓口までお問い合わせください。

皆さまの声を聞かせてください！

イムス三芳総合病院では、よりよい病院づくりをすすめるため、患者さま・地域の皆さまのご意見を募集しています。ご意見は下記FAX、E-mailまたは院内総合受付横に設置のアンケートBOXまで。皆さまの貴重なご意見をお待ちしております。

FAX：049-274-7016　E-mail：renkei.mkh@ims.gr.jp

イムス三芳総合病院　広報誌
Plaza ims（プラザイムス）Vol.20　2011.7
発行／イムス三芳総合病院　地域医療連携室
発行日／2011年7月
〒354－0041埼玉県入間郡三芳町藤久保266-1
医療法人社団明芳会　イムス三芳総合病院
TEL049-258-2323
http://www.ims.gr.jp/miyoshisougou/

整形外科のご紹介

はじめに

みなさんは「整形外科」という言葉を聞いてどういうイメージを持たれますか?
骨折、捻挫の治療を受けた、交通事故でムチウチになって通院した、腰が痛くてヘルニアと言われた･･･などなど、いろいろ経験をされた方も多いと思います。
また、「美容整形とはどう違うの?」、「整骨院とはどう違うの?」、はたまた「整体やカイロプラスチックは??」などの疑問もよく聞かれます。
これらの疑問に対しては、日本整形外科学会ホームページ（http://www.joa.or.jp/）に詳しく掲載されていますので、ぜひ一度参考にしてみてください。
今回、平成24年度中にイムス三芳総合病院が新病院移転になるのに合わせて、病院としての機能を充実させるために、今年4月より整形外科が常勤体制になりました。
そこで、整形外科としての一般の治療内容の紹介と当院における今後の展望をお伝えしたいと思っています。

整形外科とは

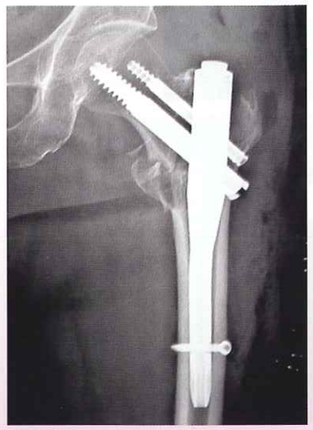
整形外科では、多くの方々が経験したことのある、肩こり、腰痛、神経痛、関節痛など、首から足の先までと体の非常に広い範囲が治療の対象となります。

主な疾患としては、外傷による四肢の骨折や脱臼、捻挫、打撲などの治療から、慢性期の疾患として関節の変性疾患（変形性股関節症、変形性膝関節症など）、肩関節周囲炎、頸椎症、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症などがあげられます。
外科という言葉がついているため、手術治療が中心になるイメージもあると思いますが、実際には、薬の投与やリハビリテーションを中心とした保存治療と手術治療の両方を患者さま、ご家族さまに説明しながら、時間をかけて一緒に治療方針を考えていく科でもあります。
そのため、外傷においては緊急を要する場合もあるため、手術治療が優先されることもありますが、一般の外来で診察させていただいている患者さまに、いきなり手術の話になることはまれなケースと考えています。
「手術と言われたらどうしよう」という心配はよほどのことがない限りありませんので、安心して受診してください。
近年では内科が、呼吸器科、消化器科、循環器科などと専門的に分かれてきたように、整形外科領域においても、背骨と脊髄を扱う「脊椎外科」、上肢を扱う「手外科」や「肩関節外科」、下肢の「股関節外科」、「膝関節外科」、「足の外科」、スポーツによるけがや障害を扱う「スポーツ整形外科」などに専門性が分かれています。
当科では、現在、外傷を中心とした「一般整形外科」を基本として診療を開始しており、順次、変形性関節症の治療を中心とした「股関節・膝関節外科」などの体制を整えていく予定です。

代表的疾患の治療方法

1. 大腿骨近位部骨折

近年高齢で高血圧、糖尿病をはじめとした合併症を多く抱えた患者さまが増えており、また心疾患や脳梗塞予防のために血



骨接合術

人工骨頭置換術

中面につづく

液をサラサラにする薬（抗凝固剤）などの手術時に注意が必要な薬剤を服用されていることもあります。手術治療と、保存的治療の利点、問題点をご説明したうえで治療方針を立てていきます。
手術の場合には、骨折部の解剖学的位置関係により骨接合術を行う場合と、人工骨頭置換術を行う場合があります。**（表紙写真参照）**
術後のリハビリは大変重要ではありますが、当院は急性期病院としての責務から長期入院は難しい状態です。そのため、MSW（メディカル・ソーシャル・ワーカー）に担当していただき、回復期病院などでリハビリが継続できるようにしています。

2. 変形性股関節症

股関節は、大腿骨の骨盤に近い丸い部分（大腿骨頭といいます）が、骨盤側の凹み（寛骨臼といいます）にはまり込む形でできています。それぞれの表面にある軟骨組織がすりへって無くなることがあり、この状態を変形性股関節症といいます。歩行時に痛みが出たり、夜間も痛みが気になって眠れないこともあります。
治療としては、痛み止めの内服や筋力訓練などのリハビリを行いますが、症状が改善しない場合、**人工股関節置換術**を行います。
人工股関節は、一般的に、金属製の大腿骨側のステムと骨頭そして骨盤側のカップと、骨頭とカップの間に入るプラスチック製（超高分子ポリエチレン）のインサートが組み合わさって構成されます。手術の適応、合併症も含めて説明の上、治療方針を決定していきます。**（図1）**

術　前

術　後

3. 変形性膝関節症

ご年配の患者さまで、膝の痛みを訴えられる方の多くがこの疾患と考えられます。
まずは外来でレントゲン撮影をして、ご自身の膝の状態を外側から負担の少ない方法で診察していくことから始まります。必要に応じてMRIなどの検査を追加していきます。
保存的な治療方法としては、痛み止めの内服やヒアルロン酸関節内注射といった薬物療法や、装具療法を行います。改善がみられない場合に手術を検討していきます。
手術は、**関節鏡手術**（1cm程度の切開を膝関節周囲に2,3か所行い、関節内にカメラを入れて手術します）、関節に体重がかかる負担を分散させる**高位脛骨骨切り術**（膝関節の変形はあっても関節の曲りが良い方や、力仕事などを継続したい方に比較的有効です）、**人工膝関節置換術**などがあります。人工膝関節は、一般的に、金属製の大腿骨側のコンポーネントと脛骨側のコンポーネント、そして、その間に入るプラスチック製（超高分子ポリエチレン）のインサートで構成されます。

関節鏡の実際

欠損した関節軟骨の状態を確認しています

断裂した半月板を確認しています

どのような術式を選択するかは、患者さまの状態に合わせた治療方法を相談しながら決めていきます。
自分の膝の痛みの原因がわからなくて不安な方や、膝の痛みを軽くしたい、旅行に出かけられる生活に戻りたいとお悩みの方は一度ご相談ください。

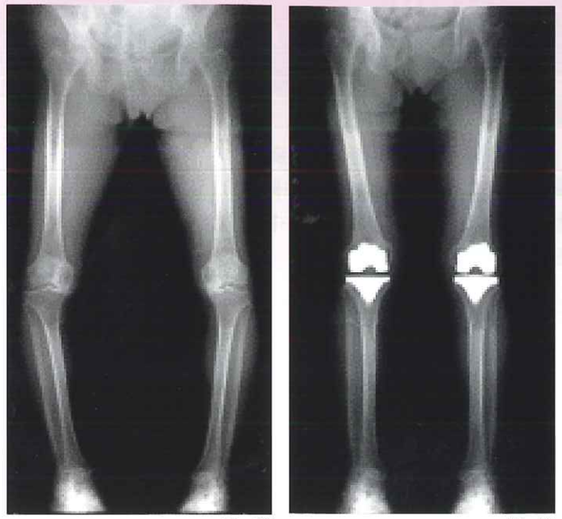
高位脛骨骨切り術

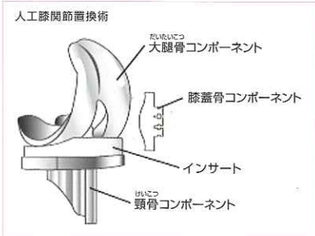
荷重（膝関節にかかる体重の負担）を分散することを目的としています。

術　前

術　後

人工膝関節置換術


術　前　　術　後



医師のご紹介

整形外科部長
比佐　健二（ひさ　けんじ）
日本整形外科学会専門医
日本リウマチ財団登録医
日本人工関節学会
一言：関節症疾患の手術の適応についてゆっくり説明いたします。

整形外科副部長
川﨑　智（かわさき　さとし）
日本整形外科学会専門医
日本脊椎脊髄病学会指導医
日本骨代謝学会
一言：お気軽に受診してください。

整形外科の治療は、さまざまな疾患によって失った運動機能をできるだけもとに回復させることを治療の目的としています。
特に今日の高齢化社会において、Quality of life（QOL:生活の質）の向上のためにも、ご本人さま、ご家族さまと治療方針を相談の上、個々の患者さまにとって最良と考えられる治療を行っていきたいと考えています。

脱水にご注意ください

夏期は脱水の危険が高くなる季節です。人間（成人）の体重に占める水分の割合は、60～70%といわれており、60%以下に減少すると脱水による症状がでる可能性があります。高齢者では体の水分量が体重の55%と低くなっているため、成人と同じ量の汗をかいた場合、脱水になる危険が成人より高くなります。また年齢を重ねると「のどが渇いた」と感じる機能が衰えがちになるためさらに注意が必要です。
人間は汗をかくと水分とともに電解質（主にナトリウム）を失うため、水分をとると同時に電解質を補う必要があります。電解質をとらず水分のみをとり続けると体の中のナトリウムがうすくなり、疲労感や頭痛といった症状があらわれるようになる可能性があります。
一般的なスポーツドリンクにはナトリウムが少なく糖分が多い傾向にあるため、適切な脱水の予防にはドラッグストアなどで売られている「経口補水液（ORS）」が有効です。もしなければスポーツドリンクを2～3倍に薄めたものと梅干しや果物などを一緒にとることで代用できます。水分をとるときには一度に大量にとるのではなくこまめにとることも重要です。
脱水はそのままにしておくと熱中症の原因の一つに主なります。適切な水分補給を心がけて暑い季節を乗り切りましょう。

※病気などで水分や塩分等の摂取を制限されている方や、利尿薬などを服用される方は一度病院で相談していただくようお願いいたします。